

## 乳腺超音波検査 所見名解説(アイウ順)

よく見られる所見	所見説明
乳腺嚢胞 (にゅうせんのうほう)	乳腺の中に分泌物が溜まり、水風船のような袋状の構造物ができる良性の病変です。30～50代の女性に多く、閉経前の女性ホルモンバランスの変化が主な原因。基本は放置可能ですが、大きくなると痛みやしこりを伴う場合があります、定期的なエコー検査で確認するのが一般的です。
乳腺石灰化 (にゅうせんせっかい)	乳腺にカルシウムが沈着して白く写るもので、多くは良性(乳腺症など)ですが、一部に早期の乳がん(非浸潤がん)が隠れている場合があるため、検診で指摘されたら精密検査が必要です。マンモグラフィ検査で見つかり、良性の石灰化はサイズが大きく、悪性は1mm以下の細かいものが集まる傾向にあります。
乳管拡張症 (にゅうかん かくちょうしょう)	乳汁の通り道(乳管)が拡張し、分泌物や血液がたまって周囲に炎症を起こす良性の乳腺疾患です。30代後半以降の女性に多く、乳頭からの白～茶褐色の分泌物やしこり、痛みを生じます。通常は経過観察で問題ない場合が多いですが、稀に乳がんとの鑑別が必要なため、乳腺外科の受診が推奨されます。
乳腺線維腺腫 (にゅうせん せんいせんしゅ)	痛みを伴わない良性の乳腺腫瘍です。乳房内にコロコロと動く、境界がはっきりした硬いしこり(通常1～2cm程度)が特徴です。正確な原因は不明ですが、女性ホルモン(エストロゲン)のバランスの変化が関与し、若年層の乳腺組織の過剰な増殖と考えられています。
乳管内乳頭腫 (にゅうかんない にゅうとうしゅ)	30代後半～50代の女性に多い、母乳の通り道(乳管)にできる良性のイボ状腫瘍です。主症状は血性や黄色い乳頭分泌物やしこりで、大きさは2～3mmが一般的ですが、数cmになることもあります。
乳腺腫瘤 (にゅうせんしゅりゅう)	乳腺組織の細胞が増殖して塊となったもの(しこり)の総称で、良性と悪性に分けられます。良性・悪性の確定診断には針生検(細胞・組織診)が必要となります。 良性腫瘤:線維腺腫、葉状腫瘍、乳管内乳頭腫、嚢胞など 悪性腫瘤:乳がん、悪性葉状腫瘍など ※葉状腫瘍には良性・境界悪性・悪性があります。
乳腺症 (にゅうせんしょう)	30～50代の方に生じやすい良性疾患で、乳房に痛み、張り、しこり、分泌物などの症状が出たりします。主な原因は、女性ホルモンの変動により起こるといわれており、ストレスや睡眠不足、不摂生、精神的な負担などによるホルモンバランスの乱れが、乳腺症になるリスクを高めるとされています。

日本人間ドック・予防医療学会 ホームページより一部引用